

Japanese man In NY (ニューヨーク生活)



(Photo: 8th Avenue in New York)

《マンハッタンのエリア 51》

今回はマンハッタンに存在したとあるホテルの話。念のため、このホテルは現在も同じ名前、同じ場所で（立派に改装されて）経営が続けられているので、名誉のために実名は伏せておきたい。

このホテルは自分が働いていたレストランに程近い場所、ミッドタウンにあったが、日が暮れるとかなり物騒な通りであった。観光客が気軽に近寄れるような雰囲気ではなく、1990年代半ば当時、このホテルに滞在する人といえば、各国から訪れるバック・パッカーの他、低所得者層や日本で言う日雇いの労働者のような人たちがアパート代わりに長期滞りしており、ひと目でジャンキーとわかる者、酔っ払いやホームレスたちがホテルの入り口付近に年中たむろしているなど、日が暮れると通りを歩く人の姿を見かけることもほとんどなかった。

個人的には“マンハッタンのエリア 51”（*下記注釈参照）と呼びたくなるような場所だったが、そのホテルには自分がお世話になっていたレストランの仲間たちが暮らしていた。多い時には5~6人は住んでいたと思うが、よくディナーの仕事が終わった深夜過ぎに仲間の部屋に立ち寄ったものだ。当時もし何かの事件に巻き込まれて命でも落としていたら、間違いなく「あんな場所に入出入りしていたら当たり前だよ…」のひと言で片づけられていたであろうと思えるほど夜はかなり物騒だった。だが、住めば都というのは本当で、住み慣れてくるとホテルの前でたむろしている怪しげな男たちの姿も日常の風景に溶け込んでしまい、怖さなど全く感じなくなり、気軽にごく普通に出入りするようになっていた。

部屋によって広さや形はまちまちだったが、自分が暮らしていたアッパー・ウエストの3畳間ほどのアパートの部屋より若干広めの部屋がほとんどで、簡易ベッドがボツンと置かれ、勿論バス・トイレは共同で、部屋によっては水道の蛇口とシンクが備え付けられていた。ホテルは4~5階建てだったと記憶しているが、かなりの年季を感じさせる建物で、長い歴史の中でどこかの部屋で変死体が見つかったり、ドラッグ絡みの事件なども多々あったものと思われる。それほど怪しげな雰囲気を醸し出していたが、なぜか部屋の壁の色が薄いピンク調だったのはちょっと癒された。

部屋によって広さや形はまちまちだったが、自分が暮らしていたアッパー・ウエストの3畳間ほどのアパートの部屋より若干広めの部屋がほとんどで、簡易ベッドがボツンと置かれ、勿論バス・トイレは共同で、部屋によっては水道の蛇口とシンクが備え付けられていた。ホテルは4~5階建てだったと記憶しているが、かなりの年季を感じさせる建物で、長い歴史の中でどこかの部屋で変死体が見つかったり、ドラッグ絡みの事件なども多々あったものと思われる。それほど怪しげな雰囲気を醸し出していたが、なぜか部屋の壁の色が薄いピンク調だったのはちょっと癒された。

このホテルに住んでいたレストラン仲間も、それぞれの事情でこのホテルで暮らしていたのだが、職場まで歩いて数ブロックだし、アパートを借りるよりは安く、寝泊まりできれば十分と思っていたからだと思う。ディナーの勤務後にデリでビール等を買って飲んで、仲間の部屋で飲むことが多かったが、今思うとみんな最高で思い出深い場所だった。

ほとんどの仲間の部屋は殺風景だったが、こんな住処にも関わらず大きな水槽で優雅に熱帯魚を飼っていたり、おしゃれな観葉植物を育てていた後輩のS。中にはピアニストでもないのに部屋のほとんどを占領するような巨大なグランド・ピアノを置いているOさんという人もいた。また、トイレに行くのが面倒だったのだろう、部屋に備え付けのシンクを便器代わりに（勿論、“小”のみ！）に使っていたYさんをはじめ、かなりパンチの利いた仲間が多かった。

部屋はホテルの敷地内を囲むように配置されていて、建物の真ん中、内側の部屋の窓から見下ろすと中庭のような空間があったが、地面には各部屋の窓から投げ込まれたと思われるゴミ類が散乱していた。かなり危ない物も投げ込まれていた筈だが、薬でイってしまった人間が上の階から飛び降りたなんて噂も聞いたことがあった。陽も当たらず常に暗かったが、遺体が転がっていても不思議ではないような何とも不気味な雰囲気を醸し出していた。

現在は改装されて素敵なホテルに様変わりしているが、懐かしさと危険な香りが入り混じる思い出となっているホテルだ。当時のあの怪しげな雰囲気こそがニューヨークらしく、マンハッタンの街並みが整備され、建物が改築されるなどしてニューヨークの治安が良くなることは何よりだが、年々思い出の場所や風景が様変わりしていくのは寂しい気持ちもする。

最後に、当時このホテルに住んでいたニューヨークのレストラン仲間で大変お世話になったOさん（前述のOさんとは別人）は日本に帰国の際、朝方ジャンキーや酔っ払いたちが入り口付近で爆睡している中、ホテル前から豪華な黒塗りのリムジンでJFK空港に送迎されて行きました。この光景は結構笑えました。

（*エリア 51 = 「墜落した UFO が運び込まれているのでは…」 「UFO に関する何らかの物体が回収されたとされる『ロズウェル事件』と関係しているのでは…」等、様々な憶測を呼んでいるアメリカのネバダ州の南部に存在する米軍が管理している極秘施設。ちなみに「51」という数字はこのホテルの謎を解くキーワードでもあります…。）